現代病・ドライマウスを「知る」「学ぶ」「考える」

ドライマウス通信 vol.19

2010

CONTENTS

特集
『ドライマウスカード』発行
～ドライマウスの認知度向上を目指して～

トピックス
誌上体験!『ドライマウス講習会』

ご案内・インフォメーション
ドライマウス講習会、メディア情報

特集

ドライマウス研究会、初の試み『ドライマウスカード』が完成しました

ドライマウス通信vol.18でご紹介したひとつの検討が、このたび形になりました。
ドライマウスに悩む方々のための、病気の理解を得やすくするツール――――
それが『ドライマウスカード』です。
特集では、カードの作成過程で見えてきたドライマウスの認知度向上の重要性や、
現在検討されている新たな動きについても言及します。
カードが初めてドライマウスに悩む方々の元に届けられる場となった、
ドライマウス患者友の会の模様も必見です。
また今回は、トピックスとして、ドライマウスに関する基礎知識の習得の場として
ご活用いただいている「ドライマウス講習会」を取り上げます。
まだご参加いただいたことがない医療従事者の皆様は、
その雰囲気を少しでも感じていただければ幸いです。

ドライマウスとは？

口腔乾燥症。ここ数年、中高年の女性を中心に患者数が急増しています。ある広告代理店が実施した2万人を対象とした調査※によると、49%が症状を自覚しており、これは人口の約4,200万人に相当します。QOL（生活の質）の著しい低下だけでなく、放置しておくとさまざまな感染症の引き金にもなります。老化、ストレス、薬剤の副作用、シェーグレン症候群、筋力低下など、さまざまな原因からもたらされ、そのいくつかが重なって発症するケースも多々あります。　※20～60代男女を対象に、2007年5月実施。

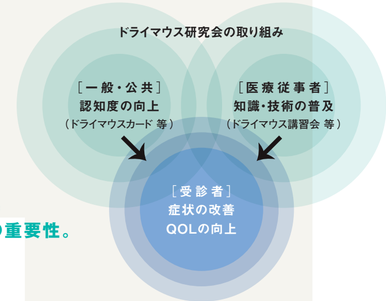
特

特集

「友の会」の声から始まった「研究会」の新たなる取り組み

『ドライマウスカード』、発行。

～ドライマウスの認知度向上を目指して～



「友の会」会員の声から生まれた、ドライマウスの認知を手助けするツールです。

vol.18で、スタートしたばかりの企画としてご紹介してから、約10ヶ月。『ドライマウスであることをわかってもらえる証明書のようなものがあれば…』そんなドライマウス患者友の会会員の声が、このたび、ひとつの形になりました。それが、ドライマウスに悩む方が病気理解を得やすくするためのサポートツール『ドライマウスカード』です。

ドライマウス研究会初となるこうしたツールが発行される最初のきっかけとなったのは、ドライマウス通信vol.17でご紹介した、ドライマウス患者友の会会員の美術館における水分補給許可の働きかけです。通院をして適切な治療を受けたとしても、症状がすぐに改善するとは限らないドライマウスは、こまめな水分補給や、ガムやアメを利用した唾液分泌の促進などの対処法が、日々欠かせないものとなります。しかし、ドライマウスは外見からは判断が難しい上、疾患自体の認知度が低いため、現状では病気を認知していいただくためには、受診者自身の努力と勇気が必要となります。

そんな中、ドライマウス患者友の会会員から「証明書のようなものがあれば…」という声があがり、それを元に考案されたのが、この『ドライマウスカード』です。マークや証明書といったさまざまな案が挙がる中、認知度の低い疾患であることを考慮して「最低限の説明ができる形状」、かつ、「携帯性が良いこと」を重視して、カードという形で作成いたしました。

『ドライマウスカード』にみるドライマウスの認知度向上の重要性。

『ドライマウスカード』は、ドライマウスに悩む方々をサポートするツールであると同時に、ドライマウスをまだご存じない方に、ドライマウスという疾患が存在することを伝えるツールとしても機能するように作られています。的確な診断と治療なくして、ドライマウスに悩む方々の豊かな生活が成り立たないことは、周知の事実です。しかし、ドライマウスという疾患があることを知っていただく、つまり"ドライマウスの認知度の向上"というアプローチにも、診断や治療とは違った側面からQOLを大きく向上させる可能性があるからです。

もしもドライマウスが、誰もが知っている疾患であれば、受診者の方が美術館から水分補給の許可をもらう際に、複雑な症状を長いメールにまとめる必要はなかったかもしれません。公的な場所でガムを噛んで眉をひそめられることも、今より少なくなるでしょう。

ドライマウス研究会では、これまで通り「ドライマウス講習会」等を通じて医療従事者の皆様に診断法や治療法を提供すると同時に、『ドライマウスカード』に始まったドライマウスの認知度向上に対する新たな取り組みを、さらに検討しています。認定医・指導士の皆様のご協力なくしては実現が難しい企画ですので、ご案内の際には何卒ご賛同いただき、ご協力をいただければ幸いです。

ドライマウスカード
受診者の利便性を考えて作られているドライマウスカード。表紙には、症状の緩和に有効な行為の例が、中面にはドライマウスの症状の特徴が、わかりやすくまとめられている。

「ドライマウス患者友の会」で初配布。多くの喜びの声をいただきました。

完成を心待ちにして下さる方に、直接顔を合わせてお届けしたい――そんな思いから、完成発表と初配布には、「ドライマウス患者友の会」が選ばれました。ドライマウスに悩む方々が集う、年に一度のこの会には、今回『ドライマウスカード』の初配布を知って駆けつけてくださった方もいらっしゃいます。そんな中、会の冒頭に当研究会代表・斎藤一郎より『ドライマウスカード』が披露され、制作の経緯や、カードに込められた思いなどが紹介されました。閉会後のアンケートには、「とても良いものを作っていただき感謝です」「常に携帯します。心強く思います」「友人などドライマウスを知らない人にも、事情を話しやすくなります」「いろいろな場面で上手に活用していきたい」といった、数多くの喜びの声が並ぶと同時に、今後のツール検討の参考となるご意見もお寄せ頂きました。『ドライマウスカード』発行の意義の大きさに、そして、今後の展開への期待の大きさに改めて気づかされた、貴重な機会となりました。

ドライマウスカードのご請求方法など詳細は、下記まで。

ドライマウス研究会ホームページ　http://www.drymouth-society.com/

注

トピックス

"ドライマウスの入門編"では、こんなことが学べます！

誌上体験！「ドライマウス講習会」

ドライマウスの基礎知識を学ぶ場としてご活用いただいている「ドライマウス講習会」。
参加したことはないけれど、どんなことが学べるのか気になる…。そんな方のために、そして、認定医・指導士の皆様に受診者への修得内容の説明にもお使いいただけるよう、講習内容をピックアップしてご紹介します。
ドライマウス講習会は、一度受講されてる方の再受講も可能ですので、基礎の再確認にもお役立てください。

「ドライマウス講習会」の基本

ドライマウスの基礎知識を学ぶ"入門編"として構成されています。

「ドライマウス講習会」で初めてドライマウスに触れる受講者も多いため、回を重ねてもあえて講義内容に大幅な変更を加えないようにしています。理解できるまで何度でも聞いていただける"入門編"の位置づけですので、再受講をご希望の方もお気軽にご参加ください。さらに高度な知識の習得を目指す方には、「ドライマウスセミナー」や「Web受講」が用意されています。

最新情報やアンケート結果などを反映させてバージョンアップ。

"入門編"というスタンスは維持したまま、最新情報やニーズを反映させて、随時バージョンアップを行っています。今回ご紹介した講義内容は、その一部。受講者アンケートでのご要望も積極的に取り入れています。

当日は企業展示もご用意。最新情報やサンプルを入手できます。

当日は、ドライマウス研究会の活動をサポートいただいている協賛企業様の展示もご用意しました。最新のドライマウス関連ツールの情報だけでなく、導入の参考となるサンプルも入手できます。

講義内容のご紹介

基礎知識ゾーン

すべてのベースとなる、ドライマウスに関する基礎知識を学びます。

ドライマウス全般の原因・診断法・治療法

ドライマウスの概要を紹介する、すべてのベースとなる講義です。ドライマウスには、シェーグレン症候群、薬剤の副作用、脳血管障害、ストレス、筋力低下など、多岐にわたる原因があり、まずはどのタイプかを見極めることが、適切な対策を導き出す礎となります。ここでは、主な原因と、原因ごとの診断法や治療法をわかりやすく解説します。

シェーグレン症候群の病因・診断法・治療法

ドライマウスは大きく分けて、唾液腺が壊れているタイプと、唾液腺は正常であるにも関わらず何らかの理由で唾液が出にくくなるタイプの2つがあります。このコーナーでは、唾液腺が壊れてしまうことによりドライマウスを引き起こす、シェーグレン症候群の病因や診断法、治療法などについて学びます。

診療現場ゾーン

ドライマウス診療の現場で役立つさまざまな知識を、スライドや実習をまじえながらわかりやすく解説します。

唾液量検査、口唇腺生検の実際

ドライマウスの診断法として最もポピュラーで取り入れやすい唾液量検査について、手順を追って解説します。また、シェーグレン症候群が疑われる場合の検査として、口唇腺生検の方法も紹介します。

シルマーテスト（涙液量の測定）の実際

ドライマウスの一般的な診断法として、唾液量検査と平行して行われることもあるシルマーテスト。ここではその実習を行います。シェーグレン症候群の診断法としても活用されているこのテストは、歯科で算定できる医科的検査のひとつでもあります。

保険請求の基本的なルールと実際

ドライマウスに関する診療を行った場合、どのように保険請求を行えばよいのかを紹介します。行った検査や診療、投与した薬などを具体的に挙げ、詳しく解説します。

対処法ゾーン

ドライマウスの原因別・症状別の対処法を学びます。

筋機能療法による対処法

ドライマウスの基本的な対処法として活用されている、筋機能療法を取り上げます。口の周りの筋肉を鍛えて唾液腺の機能を高めるエクササイズを、実演をまじえて紹介。簡単で、日々の生活の中で継続しやすく、受診者にとっても取り組みやすい対処法です。

保湿装置による対処法

夜間の口腔乾燥感に有効とされる保湿装置について、臨床試験の結果を交えてご紹介します。夜間の口腔乾燥感は、人工唾液や保湿ジェルなどでは対応が難しいため、保湿装置を取り入れることで受診者のQOLを大きく向上できる可能性があります。

口腔心身症の対処法

近年、心因的なものによりドライマウス症状を示す受診者が増えています。ここでは、ニーズに対して学べる場が少ない口腔心身症への対処法を取り上げます。口腔心身症は、薬剤の副作用が原因のドライマウスとの関連もあるため、受講者アンケートでのリクエストも多い講義です。

口腔カンジダ症の対処法

唾液による自浄作用が低下しているドライマウス受診者の口腔内は、菌が非常に繁殖しやすい状態となっているため、口腔カンジダ症が見られる方がかなり多くいらっしゃいます。ドライマウス自体の対処法ではありませんが、ドライマウス診療で必ず直面する症例としてご紹介しています。

次回の講習会は、11月14日（日）に開催が決定しています。別ページにてご案内しておりますので、興味を持たれた方はぜひご検討ください。

講

ドライマウス講習会

医療従事者向け講習会案内

平成22年度 ドライマウス研究会主催
医療従事者向け講習会のご案内

ドライマウス研究会では、ドライマウス診療の普及と
ドライマウスの専門知識を有する認定医・指導士の増加を目指し、
講習会やセミナー等を開催しています。ぜひご参加下さい。

■ 2010 11/14(日) ■ 第18回 ドライマウス講習会 ■ 会場 KDDIホール 東京都千代田区大手町1-8-1 KDDI大手町ビル2F ■

プログラム予定

- ドライマウス全般の原因・診断・治療
- シェーグレン症候群の病因・診断・治療
- 唾液量検査、口唇腺生検の実際
- シルマーテスト（涙液量の測定）の実際
- ドライマウスにおけるカンジダ症への対応
- 保湿装置の臨床実験
- 口腔心身症の対処方法について
- 脳血管障害患者における筋機能療法
- 筋機能療法等によるドライマウスの対処法

※講演内容は、予告なく変更する場合がございます。

定員になり次第、受付を終了させていただきます。
詳しくは下記ドライマウス研究会ホームページでご確認いただくか、下記講習会事務局までお問合せください。
上記講習会・セミナーは、すべて日歯生涯研修事業に該当します。

参加のお申込み・お問合せは、下記までお気軽にどうぞ。

ドライマウス研究会ホームページ http://www.drymouth-society.com/
ドライマウス講習会事務局 ☎03-3869-4158 FAX03-3869-6748 ✉seminar@drymouth-society.com

情

インフォメーション

ドライマウス研究会 Information

メディアに紹介されました

【テレビ/ラジオ】

- 日本テレビ『世界一受けたい授業』2010年5月29日O.A.
  「だ液と寿命の新事実!? 口からはじめるアンチエイジング!」
- NHKラジオ第一『私も一言! 夕方ニュース』2010年7月8日O.A.
  「ドライマウス・知っていますか?」

【新聞/雑誌】

- 毎日新聞 2010年2月26日
  「ドライマウス 生活変え改善」
- 角川SSコミュニケーションズ『毎日が発見』2010年5月号
  「医療なんでもクリニック 軽く見てはいけない『口の渇き』」
- 光文社『HERS』2010年9月号
  「小さな不調Q&A 放っておいても大丈夫? 口の中が乾く」

■ 発行人：斎藤 一郎(ドライマウス研究会 代表・鶴見大学歯学部教授)　■ 発行：ドライマウス研究会　〒230-8501横浜市鶴見区鶴見2-1-3　鶴見大学歯学部口腔病理学講座内　☎045-580-8362